

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1 - 1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043 (223) 3005
毎月 1 日発行
平成 26 年 7 月号

袖ヶ浦の畑作経営をつなぐ核となる研究会活動

君津農業事務所 改良普及課
上席普及指導員 押田 智子

JA きみつ畑作研究会は、袖ヶ浦市北部の畑作地域の主力生産者が所属し、栽培が盛んなダイコンの品種試作など、活発な研究活動を行っています。袖ヶ浦市の畑作農業の、現在から将来を担う生産者同士をつなぐ場として期待されています。

1. 研究会の概要

JA きみつ畑作研究会（鈴木雅彦会長）は、袖ヶ浦市の畑作経営者 13 名で構成される研究会組織です。会員は 30 歳代から 50 歳代まで幅広く、JA きみつが推進している加工業務用野菜の主力生産者であり、主な経営品目は、ダイコン、キャベツ、トウモロコシとなっています。



研究会員の加工業務用キャベツ圃場での収穫の様子

2. ダイコンの品種試作の取組

ダイコンでは、加工業務用出荷が増えるに従って、従来の市場出荷用品種では加工業務用に求められる特性に適應できないものもあり、改めて品種選定をする必要がありました。一方、市場出荷用でも、長年栽培していた品種より優良な品種が開発されてきたこともあり、研究会員の間で品種の見直しの要望が高まりました。そこで会の活動として、平成 23 年度から、ダイコンの品種試作の取組を始めました。試作作型や品種は、研究会員と関係機関、種苗会社で相談して決め、研究会員が手分けをして品種の試作を行っています。平成 25 年度は種苗会社各社の協力を得て、10 作型、延べ 117 品種の試作と比較検討を行いました。



有望な品種を選ぶ目は真剣です

収穫調査と併せて行う試作品種展示会では、生産者同士で熱心に意見を述べ合い、その結果はダイコン生産者全体の品種選定に活かされ、地域のダイコンの品質向上に大きく貢献しています。

3. 現在から将来の畑作地域を担う、人をつなぐ場として

研究会には、後継者がいる親世代から、若手経営者、新規就農者などが加入しており、地区や年代を超えた畑作経営者の交流と意見交換の場になっています。会の活動は年々活発化しており、昨年度は県内の大規模露地野菜経営者と、自分たちが出荷している加工業者への視察研修会を行い、より一層経営に対する積極性が増してきました。

地域の畑作農業を将来にわたって支える人材が集まる場として、JA きみつ畑作研究会の存在意義は高まり続けています。

消費者に選ばれる梨産地を目指して

長生農業事務所 改良普及課
主任上席普及指導員 斉藤寿久

一宮町の関孝一さんは、7 年前から梨栽培を始め、一宮・岬梨組合研究部で若手後継者として技術向上に励むほか、「渚のファーマーズマーケット」運営委員として地域の活性化にも積極的に取り組んでいます。

1. 産地の概要

一宮・岬地区の梨は、温暖な気候に恵まれ、「幸水」の大玉・早出し産地として知られています。

一宮・岬梨組合は、平成 17 年に一宮町梨組合と岬町梨組合が合併し、今年で 10 周年を迎えました。現在は、組合員 107 名、栽培面積 65ha です。

集出荷施設「JA グリーンウェーブ長生」では、光センサーを用いた選果によって品質の高い「ながいき梨」を出荷することで、市場からも定評があります。

2. 経営の概要

関孝一さんは、7 年前に介護関係の仕事を退職した後、本格的に梨栽培を開始しました。

現在、栽培面積 90a、品種は、「幸水」、「豊水」、「二十世紀」、「新高」です。

労力は 3 名（本人、父母）ですが、今は子育てに忙しい妻、美恵さんも、梨づくりに意欲があるそうです。



防除作業中の関孝一さん

本組合研究部で若手農家とともにせん定方法や若木育成技術の研鑽に励んでいるほか、一宮海岸で行われる交流イベント「渚のファーマーズマーケット」の運営にも参加しています。ここでは一宮町の農業後継者が中心になり、地元の農産物の PR、販売をします。今年 7 月 13 日に開催予定ですので、是非、遊びに来てください。

3. 栽培の特徴

「幸水」の内 20a は、雨よけ栽培により早期出荷を図っています。盆前は市場出荷が中心で、盆後は直売が主体になります。

また、本地域の課題である黒星病の防除対策について、生産者同士が活発な情報交換を行い、産地全体で安定生産ができるよう取り組んでいます。

4. 今後について

産地の課題の一つとして、生産者の減少があります。関さんは「先輩方が築きあげてくれた産地のブランドを守り、消費者の方に選んでいただける産地であるように努力していきたい」と考えています。



JA グリーンウェーブ長生での選果

厳寒期の安定生産に向けた春系キャベツ栽培

農林総合研究センター

東総野菜研究室 研究員 小塚玲子

厳寒期の1～3月に収穫するキャベツは単価が高く、安定生産できれば高い収益が見込めます。一方で、凍害や腐敗病が発生するため、耐寒性の強い品種が求められます。3月下旬どりでは抽台が遅いことも重要です。ここでは厳寒期どりに向く春系品種と寒害軽減対策を紹介します。

1. 厳寒期どりに適する品種の選定

東総地域内陸部では、厳寒期の日平均気温は5℃を下回り、最低気温は-5℃に達します。この時期問題となる腐敗病を回避するために、「YR春系305号」(増田採種場)は1月上旬まで、「潮岬」(タキイ種苗)は1月下旬まで、「TCA-463」(タキイ種苗)は2月上旬までの収穫を目安として作付します(図1)。

2月～3月上旬収穫の品種としては、腐敗病の発生が少ない「春系643」(増田採種場)が適します。この品種は、播種時期が遅い場合や肥料が少ないと小玉になりやすいことから、8月下旬に播種し、基肥窒素として20kg/10a程度を施用します(表1)。

3月中旬～下旬収穫の品種としては、腐敗病の発生が少なく、花芽の発達が遅い「金瑛」(サカタのタネ)が適します。播種時期が遅いと形状が乱れやすいことから、8月末から9月5日に播種します。

2. 外葉被覆による寒害軽減策

キャベツは、-5℃以下になると凍害や腐敗病が発生しやすくなります。この対策として、他株から採取したキャベツ外葉で結球部上面を覆うことにより、キャベツの表面温度が-5℃以下になる時間が少なくなり、腐敗病の発生を軽減できます(表2、写真1)。外葉は、あらかじめ切り離して萎れたものを用いることで、風で飛ばされにくくなります。

3. おわりに

新品种の導入に当たっては、収穫時期に適した品種を適期に播種することが重要です。地域により気象条件が異なることから、ここで紹介した時期を目安に、各地域での適応性を確かめて下さい。

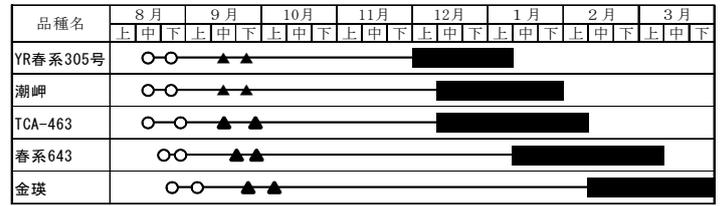


図1 冬どり春系キャベツの収穫時期別の適品種(東総地域内陸部)

表1 基肥窒素量とキャベツの収穫時の生育

供試品種	基肥窒素量 (kg/10a)	地上部重 (kg/株)	結球重 (kg/株)	球高 (cm)	球幅 (cm)	外葉数 (枚)	最大葉長 (cm)
春系643	10	1.69	0.85	11.2	19.9	13.0	35.4
	20	2.06	1.14	12.3	18.2	12.6	35.5
	30	2.09	1.16	12.6	18.0	12.6	37.3
YR春系305号	10	2.00	1.33	12.9	18.6	9.5	34.9
	20	2.28	1.51	13.4	19.1	9.8	35.5
	30	2.21	1.41	13.3	19.6	9.5	36.8

注1) 平成24年8月25日に播種、9月17日に定植し平成25年1月24日に調査した

注2) 追肥は行わなかった

表2 外葉を用いた結球部の被覆によるキャベツの凍害及び腐敗病の発生軽減効果

試験区	供試品種	結球重 (kg/株)	凍害		腐敗病	
			発生株率 (%)	発生度	発生株率 (%)	発生度
被覆処理区	YR春系305号	1.37	83	35	73	49
	春系643	1.03	17	4	17	8
無処理区	YR春系305号	1.33	100	78	93	74
	春系643	1.08	47	18	40	22

注1) 平成24年8月25日に播種、9月17日に定植した

注2) 被覆処理区は、平成24年12月27日～平成25年2月4日の間、他株のキャベツ外葉を結球最外葉の外側から被覆した。2月4日に調査した

注3) 凍害及び腐敗病の発生度は、4：著しい発生-1：わずかな発生-0：発生なしとし、以下の式により算出した。

発生度 = Σ (各指数別株数 × 各指数) / (調査株数 × 4) × 100



写真1 キャベツ外葉を結球部に被覆した株

注) 矢印は被覆した外葉

鉢物トルコギキョウにおけるLED照明利用の可能性

千葉県農林総合研究センター
花植木研究室 研究員 中島 拓

省電力で長寿命なLED照明を利用した、鉢物トルコギキョウの母の日出荷方法を紹介します。

1. はじめに

省電力な照明器具として注目されるLED（発光ダイオード）は、農業分野での利用も注目されています。農林総合研究センターでは、平成23年度から花き生産場面におけるLED照明の利用技術の開発に取り組んでいます。今回は、LED照明を利用した鉢物トルコギキョウの母の日向けの出荷技術について紹介します。

2. 鉢上げ以降の遠赤色光照射による開花促進

鉢花トルコギキョウでは、母の日に向けた出荷に間に合わせるための開花促進が求められています。これまでに、白熱灯を用いた開花促進技術を開発しましたが、さらに開花を早めるため遠赤色光LED照明の利用を検討しました。鉢花トルコギキョウでは鉢上げ以降に遠赤色光のLED照明を照射すると、従来の白熱灯よりも更に開花が早まり、5月第2日曜日の母の日に間に合う開花日となります。しかし、草丈が長くなり、花蕾数が減少するため、間延びした草姿となってしまいました。（写真1、表1）



写真1 遠赤色光照射が「サファイアピンクリム」の生育に及ぼす影響

表1 遠赤色光照射が「サファイアピンクリム」の生育に及ぼす影響

照射光	開花日		草丈 (cm)	株幅 (cm)	側枝数 (本)	花蕾数 (個)
	1番花	3番花				
遠赤色	4月27日	5月5日	33.7	28.2	10.3	65.7
白熱灯	5月2日	5月9日	31.0	28.1	10.5	61.8
無処理	5月9日	5月15日	30.8	29.4	10.7	75.4

播種：平成24年10月12日 鉢上げ：同年12月26日
加温温度：15℃ 照射時間：16時間日長となるように日長延長で照射

3. 育苗中の青色もしくは赤色光照射

植物は体が小さいと少量の光でも敏感に反応することがあります。播種から鉢上げ前までの育苗期に青色光のLED照明を照射すると、側枝数の多

い品種「サファイアピンクリム」では開花時の花蕾数が増加することがわかりました。これに対し側枝数の少ない品種「一姫ピンクパステル」では花蕾数が減少してしまいました。（表2）

表2 育苗期の照射光の違いが生育に及ぼす影響

品種名	照射光	開花日		草丈 (cm)	側枝数 (本)	花蕾数 (個)
		1番花	3番花			
サファイア	LED青色	5月3日	5月13日	29.8	11.8	88.3
ピンクリム	無処理	5月9日	5月15日	30.8	10.7	75.4
一姫ピンク	LED青色	4月26日	5月4日	28.9	3.6	22.1
パステル	無処理	5月7日	5月16日	31.2	4.3	29.9

播種、鉢上げ、加温温度は表1に同じ 照射時間：播種～鉢上げ直前まで終夜（16:30～翌8:30）照射

4. 育苗期の照射と鉢上げ以降の照射の併用

青色光で効果が認められた「サファイアピンクリム」を用いて、育苗期に青色光を、鉢上げ以降に遠赤色光を組合わせて照射する方法を検討しました。遠赤色光のみの照射と同様に開花日は早くなり、花蕾数の減少もありませんでした。（表3）

表3 照射光と照射時期の違いが「サファイアピンクリム」の生育に及ぼす影響

育苗期	照射光	3番花 開花日	草丈 (cm)	株幅 (cm)	側枝数 (本)	花蕾数 (個)
青色	遠赤色	5月3日	32.6	26.8	10.7	71.6
青色	無処理	5月13日	29.8	29.9	11.8	88.3
無処理	遠赤色	5月5日	33.7	28.2	10.3	65.7
無処理	無処理	5月15日	30.8	29.4	10.7	75.4

播種、鉢上げ、加温温度は表1に同じ 照射時間：播種～鉢上げ直前までは終夜（16:30～翌8:30）照射、鉢上げ以降は16時間日長となるように日長延長で照射

5. おわりに

今回の試験から、側枝数の多い品種では育苗期の青色光照射と鉢上げ以降の遠赤色光照射の組み合わせにより、開花を早めつつ、品質を維持できることが明らかとなりました。しかし、側枝数の少ない一姫シリーズの様な品種では、今回の技術は利用できませんので注意が必要です。

今後は、サファイアシリーズでこれらの効果を得るために必要な光量や栽培面積当たりの設置個数等、生産現場での利用方法についての研究を進め、母の日には鉢花トルコギキョウを安定して出荷できる栽培技術の確立を目指します。

卸売市場におけるオール千葉での販売促進の展開

千葉県農林水産部流通販売課
首都圏マーケティングセンター
副主査 大屋敷 亮輔

千葉県では、平成25年度より、加工・業務等の大口需要に対応できる力強い産地づくりを目指しています。その取組の一環として、青果物の主要品目で、JAの枠を超えて産地が連携する、「オール千葉」体制構築の一助となるべく、東京都中央卸売市場大田市場で、複数産地による試食宣伝会等を企画・開催しています。

1. 卸売市場における農産物のPR

東京都中央卸売市場大田市場では、主に農産物の出回り等を流通関係者に周知するため、各県の全農やJAが主導してPRイベントを開催しています。

このイベントでは、農産物の展示のほか、旬の農産物を流通関係者に直接味わってもらうための試食宣伝等を行っています。

千葉県でも近年、JA全農ちばやJA主導のもと、ニンジンやさつまいも、スイカなど、さまざまな品目のPRを行うようになりました。

2. 平成25年から始まったオール千葉の取組

千葉県では、園芸産出額1位奪還のため、加工・業務等の大口需要に対応できる、千葉県を一つの産地とした広域産地構築を目指しています。

その第一歩として、県の主要品目であるニンジン、トマト、さつまいも、ネギ等で、県内産地が連携して、「オール千葉」として売り込もうという動きが始まっています。

3. 卸売市場でのPR活動もオール千葉で！

この「オール千葉」への取組の足がかりとすべく、千葉県・JA全農ちば・公益社団法人千葉県園芸協会が連携し、複数の産地が合同で実施する、市場での農産物PRイベントを企画・実施しています。

平成25年11月29日にはJAいんば・JA富里市・JA山武郡市の3JAが合同で、千葉県産ニンジン試食宣伝会を実施。平成26年2月4日には「千葉県野菜春の陣」と銘打ち、千葉県産の春野菜を展示PRするとともに、特にトマト、ネギについては、JA長生・JA山武郡市・JAちばみどりが合同で試食宣伝を行い、イベント後は参加産地の情報交換会を開催しました。

今年度も、千葉県挙げての「オール千葉」PR活動を積極的に展開するべく、各種イベントを企画中です。関係機関、産地の皆さまの積極的な参加をお待ちしております。

<平成25年度千葉県野菜春の陣>



3 JA合同試食宣伝に集まる多数の買参人



市場担当者を交えての
参加産地の情報交換会

千葉県立農業大学校平成 27 年度入学生募集

農業のプロフェッショナルを目指す、元気な皆様のご入学をお待ちしています！

(推薦入学試験)

- ▼ **募集人員** 農学科約 40 名、研究科約 10 名
- ▼ **推薦入学試験受験資格**
農学科：高校卒業者又は平成 27 年 3 月卒業見込みの者で、人物、学力ともに優れ、学校長が推薦する者
研究科：短大卒業と同等と認定されている農業大学校等の卒業者又は平成 27 年 3 月卒業見込みの者で学校長が推薦する者
- ▼ **試験期日** 平成 26 年 10 月 28 日
- ▼ **選考方法** 書類審査、小論文、面接
- ▼ **出願期間** 平成 26 年 10 月 1 日～15 日

(一般入学試験)

- ▼ **募集人員**
A 日程 農学科約 30 名、研究科約 10 名
B 日程 農学科約 10 名、研究科若干名
- ▼ **一般入学試験受験資格**
農学科：高校卒業者又は平成 27 年 3 月卒業見込みの者等
研究科：短大卒業と同等と認定されている農業大学校農学科等の卒業者又は平成 27 年 3 月卒業見込みの者等

- ▼ **試験期日**
A 日程 平成 27 年 1 月 8 日
B 日程 平成 27 年 3 月 2 日
- ▼ **選考方法**
農学科 国語総合（必須）
農業科学基礎、生物基礎、化学基礎のうち 1 科目（選択）、面接
研究科 作物学、園芸学、畜産学、農業経営学のうち 2 科目（選択）、面接
- ▼ **出願期間**
A 日程 平成 26 年 12 月 5 日～19 日
B 日程 平成 27 年 2 月 9 日～18 日
- ▼ **申込・問合せ**
千葉県立農業大学校
〒283-0001 千葉県東金市家之子 1059
TEL 0475 (52) 5121
FAX 0475 (54) 0630
<http://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/>

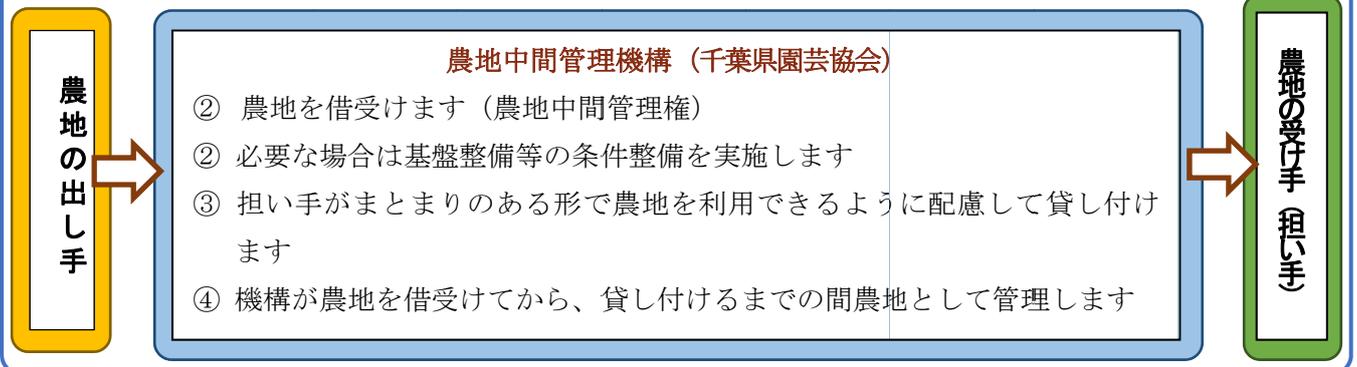
1 農地中間管理事業の仕組み

公益社団法人 千葉県園芸協会 農地部

担い手への農地集積・集約化や耕作放棄地の解消を加速化するため、農地所有者と農業経営者の間に農地中間管理機構（以下、機構）が立って農地の貸借等を行い、農地の集団化、経営規模の拡大、新規参入を進めます。機構は各都道府県に1か所設置され、千葉県では「公益社団法人千葉県園芸協会」がその指定を受けました。

農 地 中 間 管 理 事 業

(千葉県園芸協会と市町村等が連携して行います。)



次のような場合は、機構が借受け対象農地から除きます。

- ① 農業振興地域の区域外（市街化区域等）の農地
- ② 所有が共有名義になっていて、同意書が不足している場合
- ③ 仮登記、抵当権等、安定した貸付けに支障が生じる可能性がある場合
- ④ 再生不能な遊休農地など、利用することが著しく困難な場合
- ⑤ 借受希望の状況等から、貸し付ける可能性が著しく低い場合

